

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

<噴火警戒レベルを3（入山規制）から5（避難）に上げ>

本日（24日）20時05分に南岳山頂火口で爆発が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から東方向へ約2.5kmまで達しました。また、ごく少量以上の噴煙が火口縁上300mまで上がり、雲に入りました。

桜島では、南岳山頂火口を中心に、噴火活動が非常に活発化していることから、本日20時50分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から5（避難）に引き上げました。

【防災上の警戒事項等】

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね3km以内の居住地域（鹿児島市有村町及び古里町の一部）では、大きな噴石に嚴重な警戒（避難等の対応）をしてください。また、概ね2kmの範囲では火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

○ 活動概況

桜島では、本日（24日）20時05分に南岳山頂火口で爆発が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から東方向へ約2.5kmまで達しました。また、ごく少量以上の噴煙が火口縁上300mまで上がり、雲に入りました。桜島で弾道を描いて飛散する大きな噴石が2kmを超えて飛散したのは、2020年6月4日以来です。

桜島島内に設置している伸縮計では、本日（24日）19時頃から山体の膨張が観測されていましたが、20時05分の爆発により収縮しました。なお、18日09時頃から観測されているわずかな山体膨張は解消されていません。

火山性地震は少ない状態で経過しています。噴火に伴う火山性微動が発生しています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
(<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>)

この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局大隅河川国道事務所、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『基盤地図情報』を使用しています。



図1 桜島 警戒が必要な範囲

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね3km以内の居住地域（鹿児島市有村町及び古里町の一部）では、大きな噴石に嚴重な警戒（避難等の対応）をしてください。また、概ね2kmの範囲では火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。



図2 桜島 7月24日20時05分の南岳山頂火口の爆発の状況（牛根監視カメラ）

南岳山頂火口から弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から東へ約2.5km飛散しました（黄破線）。また、ごく少量以上の噴煙が火口縁上300mまで上がり、雲に入りました。

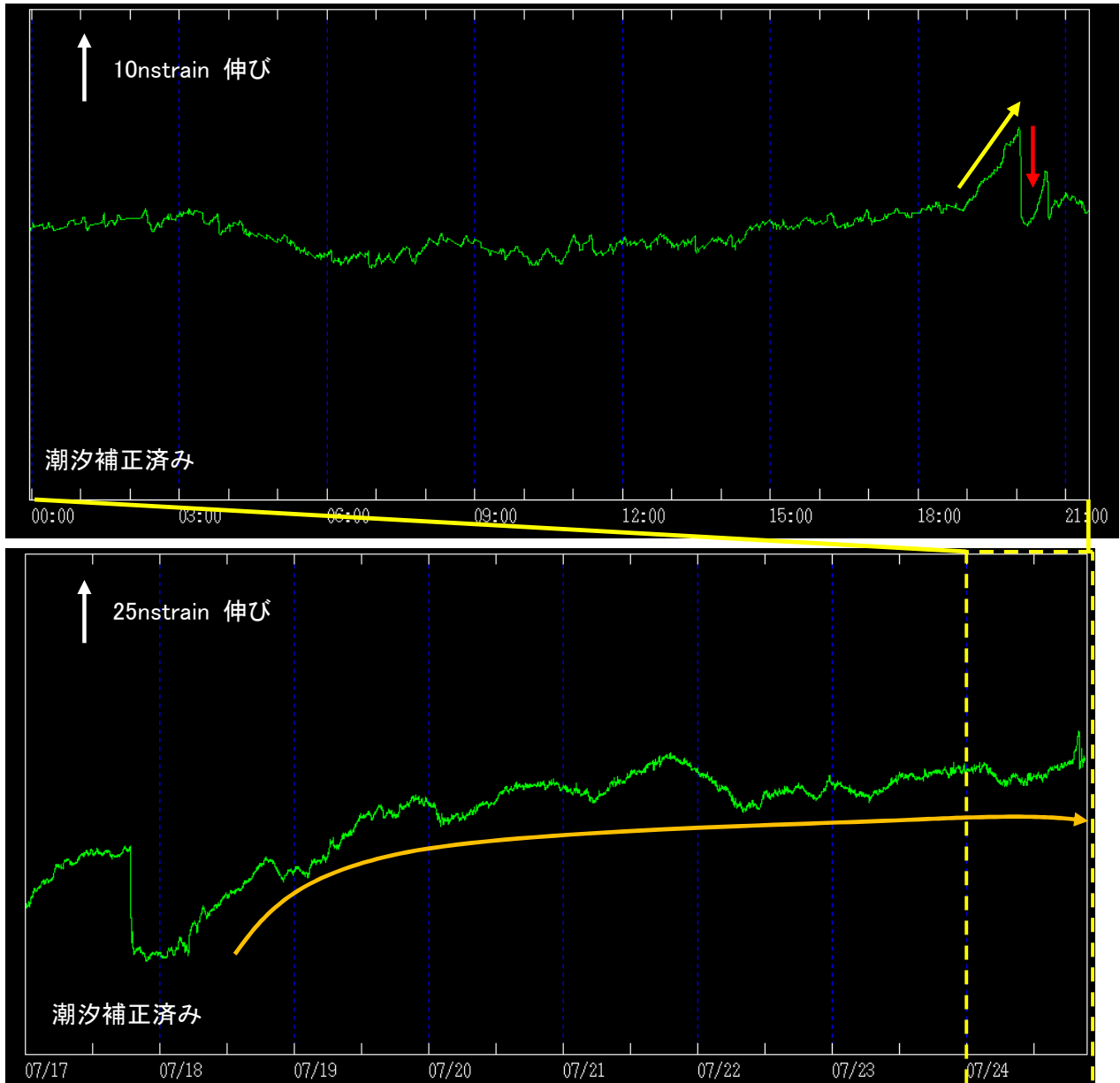


図3 桜島 伸縮計による地殻変動の状況

(上段：2022年7月24日00時～21時、下段：2022年7月17日～24日21時、
有村坑道観測点伸縮計火口直交成分（大隅河川国道事務所設置）)

桜島島内に設置している伸縮計では、24日19時頃から山体の膨張が観測されていましたが（黄矢印）が、20時05分の爆発により収縮しました（赤矢印）。

なお、7月18日09時頃から観測されているわずかな山体膨張（橙矢印）は解消されていません。

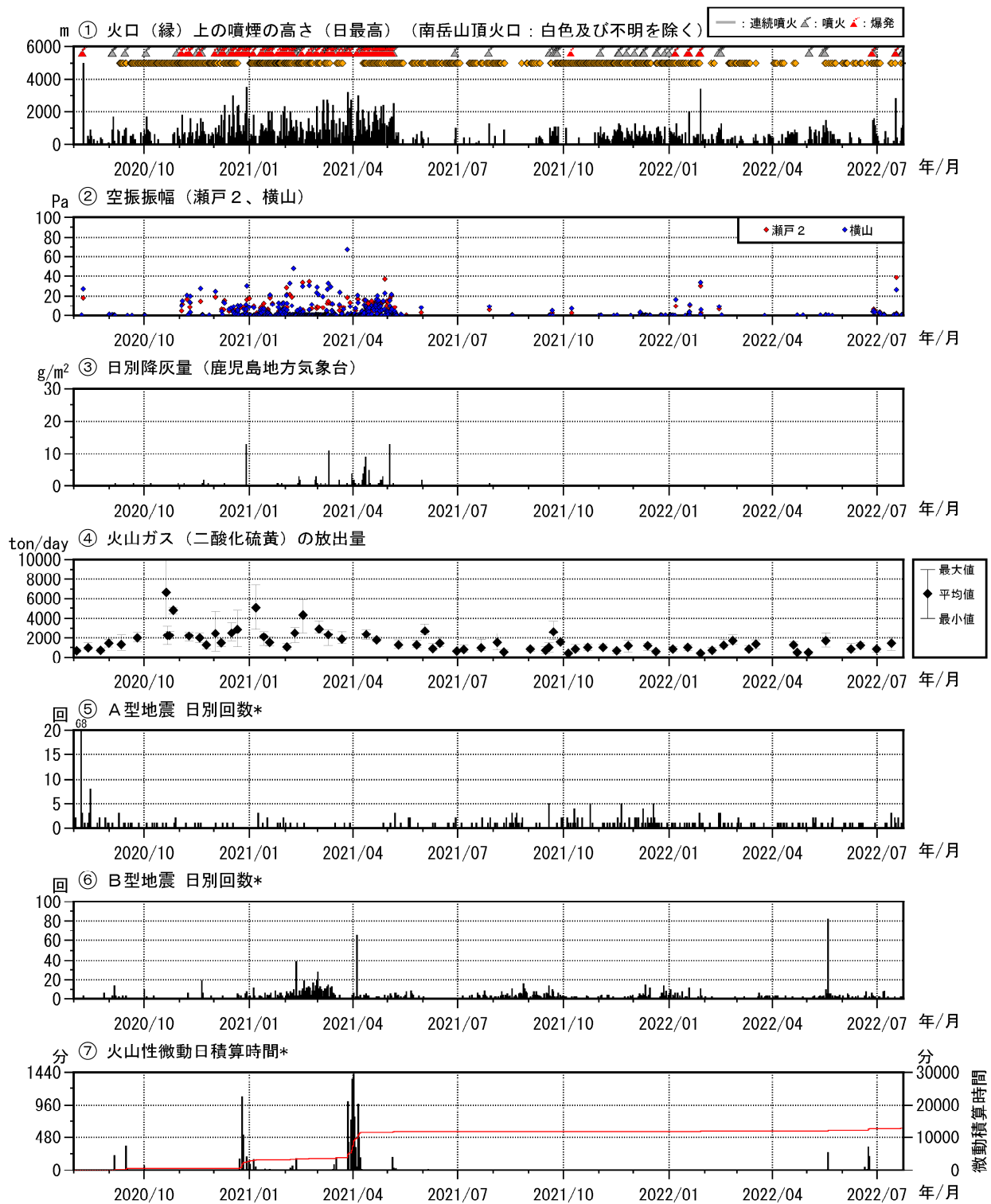


図4 桜島 活動経過図 (2020年8月～2022年7月23日)

- ・桜島では、噴火活動は低調に経過していましたが、7月17日には爆発が発生し、その後噴火が時々発生しています。
- ・火山ガスはやや多い状態で経過しています。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しています。

*「あみだ川及び横山観測点」で計数(計数基準 あみだ川: 水平動 $2.5 \mu\text{m/s}$ 以上 横山: 水平動 $1.0 \mu\text{m/s}$ 以上)

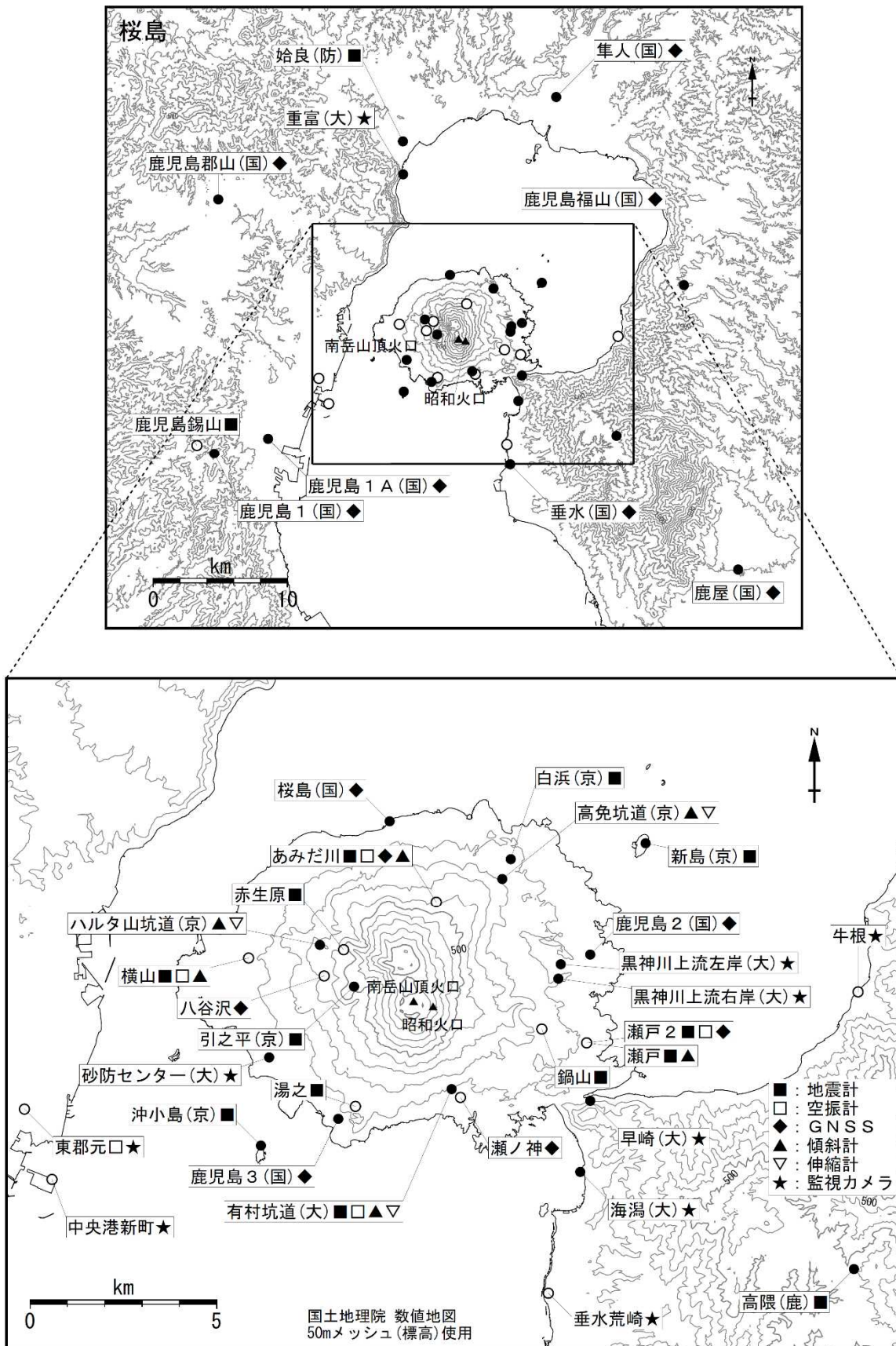


図5 桜島 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(大)：大隅河川国道事務所、(京)：京都大学
 (鹿)：鹿児島大学、(防)：防災科学技術研究所